

## 奈義町との文化交流事業

### 「奈義町こども歌舞伎公演」開催

7月29日、出石永楽館で奈義町(岡山県)の小学生による「こども歌舞伎」の公演が行われました。



▲「弁天娘女男白浪 稲瀬川勢揃いの場」を演じる小学生

本市と奈義町は「先端的まちづくりに関する連携協定」を締結しています。奈義町は、徹底した子育て支援策により、近年非常に高い出生率となっているまちです。また、町職員に歌舞伎専門職を配置するなど、江戸時代から伝わる地歌舞伎の保存と伝承、振興に



▲名場面「父さんの名は阿波の十郎兵衛、母さんはお弓と申します」

まちを上げて取り組んでいます。本市と奈義町は、互いのまちづくりを学ぶとともに、交流を通じて、新たなまちづくりを目指します。

演目は、小学生5人が演じる「弁天娘女男白浪 稲瀬川勢揃いの場」、中川 桜さん(小学3年)と横仙歌舞伎保存会の皆さんらが演じる「傾城阿波鳴門 巡礼歌の段」。小学生向けの歌舞伎の見方解説も行われました。会場は永楽館歌舞伎に引けをとらない満席で、観客は子どもらの感情豊かなせりふ、立ち居振る舞いに盛んに拍手を送っていました。

## 豊岡市参与に前野文孝さん就任

市の重要施策を円滑かつ効果的に推進するため、8月1日、本市参与に前野文孝さんが就任しました。

市長の指定する重要な施策に参画し進言します(任期は9月14日まで)。



前野文孝

【豊岡市参与】(敬称略)

## 国登録有形文化財に答申

### 城崎温泉街の5カ所7件の建造物

国の文化審議会は、城崎温泉街にある5カ所の建造物7件を国登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申しました。

答申された文化財の一つ、城崎温泉街と大師山山頂を結ぶ城崎ロープウェイの三つの駅舎「山麓駅」「温泉寺駅」「山頂駅」。鉄筋コンクリート造りで、関西電力初代社長の太田垣士郎さんの支援を得て、昭和37年に建設されました。当建造物は、屋根がヴォールト状(かまぼこ型)で緩やかな曲線を描き、シンプルな外観が景観になじんでいると評価されました。



▲城崎温泉ロープウェイ山麓駅

- 《答申された文化財》
- ・旧大和屋旅館(昭和2年建設)
  - ・蓮成寺本堂(昭和11年建設)
  - ・本住寺本堂(昭和6年建設)
  - ・うめのや遊技場(昭和前期建設)
  - ・城崎ロープウェイ山麓駅
  - ・城崎ロープウェイ温泉寺駅
  - ・城崎ロープウェイ山頂駅
- (いずれも昭和37年建設)

## 主な市政の動き

- 〔7月〕
- 11日・市議会(臨時会)
  - 20日・地域コミュニケーション研修「将来を見据えた地域コミュニケーション組織のあり方」
  - 23日・保護者向け就職活動セミナー
  - 24日・教職員短期社会体験研修「先生のトライやる」(～8月30日)
  - 27日・「地方行政活性化セミナー」に職員派遣(インドネシア)
  - 28日・豊岡市空家等対策協議会
  - 29日・奈義町こども歌舞伎公演
  - 31日・九州北部豪雨に係る被災地・朝倉市(福岡県)に職員派遣(～8月5日)
- 〔8月〕
- 1日・豊岡市環境審議会
  - 5日・陸上自衛隊第3師団音楽フェスタ in 豊岡(～6日)
  - 7日・豊岡市災害対策本部設置(8日・廃止)
  - 10日・若者交流情報「ツツカケ(SNS)」配信開始
- ・モンゴル国友好訪問使節団の派遣(～8月7日)

## 但馬初！演奏会中に地震発生を想定した避難訓練も実施

### 陸上自衛隊第3師団音楽フェスタ in 豊岡開催

8月5・6日、市民会館文化ホールで「陸上自衛隊第3師団音楽フェスタ in 豊岡」を開催し、延べ約1500人の市民らが演奏会や自衛隊車両の展示などを楽しみました。

演奏会では、音楽隊の演奏に合わせて自衛隊の活動や隊員の1日の行動が映像で紹介された他、「ワルキューレの騎行」や演歌メドレー「ど演歌えさすぷれす」などを演奏。師団

自衛太鼓の演奏では、会場に響き渡る太鼓の迫力ある音や隊員の躍動感あふれる動きが、観客を魅了しました。

5日には、演奏会の途中に地震が発生したと想定して、避難訓練を実施。但馬では初の市民らが参加しました。今回の訓練の結果を検証し、災害発生時の観客の安全な避難誘導に役立てます。



▲演奏会の途中に実施された避難訓練。一斉に会場から総合体育館前に避難する参加者ら

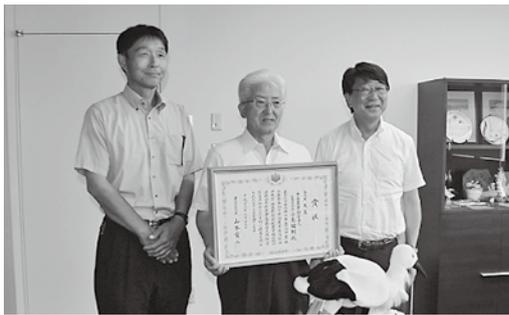
## コウノトリ育む農法で高付加価値。そしてたゆまぬ努力！ 中谷農事組合法人「コウノトリ大豆」農林水産大臣賞受賞を報告

全国農業協同組合中央会（JA全中）などの主催で行われた第45回全国豆類経営改善共励会、大豆経営の部で、中谷農事組合法人が農林水産大臣賞を受賞しました。

同法人は、市街地を流れる円山川の東に広がる「六方田んぼ」のほぼ中心にあり、耕作面積は64・6ヘクタール。このうち16ヘクタールを利用して、平成20年から大豆栽培を行ってきました。

「10年前までは、豊岡の田んぼで大豆を作ることは、無理ではないかと言われていた」と語る代表理事組合長の小島昭則さん。同法人は、減農薬のコウノトリ育む農法（大豆）に取り組みとともに、圃場の排水対策を徹底し、高付加価値農業を確立しました。

今回の審査会には、全国から115点がエントリー。同法人は、初めての出品で最高の賞を受賞しました。



▲市役所で市長に報告する中谷農事組合法人の小島組合長（中央）と松井理事（左）

## 中貝市長の徒然日記 ⑪⑧

### 中学生と向き合う

市内九つの中学校で、市長特別授業をしました。

「豊岡がどんなに素敵か、を伝えるにきました。私はこの町をもっと素敵にしようと、職員や市民の皆さんと一緒に頑張って頑張っています。でも、大人たちは先に世を去ります。皆さんにそのバトンを受け継いでほしいと願っています」

豊岡は「小さな世界都市」を目指していること、コウノトリ野生復帰は世界的評価を受けていること、城崎国際アートセンターには世界中から優れたアーティストが続々とやってきていること、豊岡全体で海外からの旅行者が急増していること・・・さまざま質問がきました。

Q. 町のために、私たちは何をすればいいですか？

A. 町を知ること、です。知れば、たいてい好きになります。そのとき、好きになったもののために何をしたいか、自分自身で考えてみてください。

Q. 失礼な質問になるかもしれませんが、市長は城崎や出石はよくPRされていますが、竹野や但東はあまりされていないように感じます。但東も大切でしょうか？

A. こんな鋭い質問は、初めてです。竹野も但東も、みんな素敵で、大切です。でも、世界の人々から豊岡はなかなか見えます。そこでまず、世界に目立つものから売り込む、という作戦です。城崎に惹かれて豊岡に来てみたら、他にも素晴らしいところがたくさんあると気付いてもらおう、というやり方です。

後日、教育長からメールが届きました。二つ目の質問をした生徒が「市長の口から豊岡全体が大切だと聞いた時が一番嬉しかった。但東のことを大人よりもっと調べて、ネットで但東のPRを徹底したい」旨を書き、質疑応答を聞いていた1年生の生徒が「その質問にとっても共感し、市長の答えですっきりした。但東のみならず豊岡全体も好きになった」と書いてくれる。バトンを引き継いでくれる生徒は、きっと出てきます。